

ぼくはふとたまに、なぜこんなに苦勞して勉強をするのだろうかと思うときがある。それは自分の将来のためだと自分に言い聞かせてきた。あるとき、ぼくはテレビでガーナの六才と十一才の兄弟が、チコレートの原料であるカカオの実を採るために、一日二回少量の食事で働かされているのを見た。その兄弟は勉強がしたくても小学校に行くことができない。兄は大工に、弟は白人の国に行ってお金をたくさんためて、病気でたおれたお母さんに仕送りをしたいという夢があった。

ぼくは習い事をしたり、塾に通ったり、十分な教育を受けることができているが、日本にもガーナのようにお金で食事が十分ではなく、習い事もできない子供がいることを知っておどろいた。それで、どの子供たちにも教育を受けられるように援助する必要があり、と思った。そのことから、ぼくは解決が難しい日本の問題として、教育問題について考えた。

日本でも、海外でも、生きるために大切なことは、食べるものが一番である。生きることができないければ、教育を受けることもできない。その食料は、お金持ちやお金のある国からの援助が必要だ。しかし、食料やお金を援助するだけでは、食べるだけ、使うだけで終わってしまう。貧困から抜け出すには教育が必要だ。なぜなら、勉強をすることで考える力、知識、技術が身について、いろいろなる仕事につくことができる機会が増えるからだ。

日本では江戸時代から、貧しい農民でも男女に関係なく寺子屋で勉強していた。だから、渋沢栄一のように農民出身でも能力があれば、将軍に仕え、日本を引っぱるリーダーとなることができた。当時、文明の進んだヨーロッパでもこのような国はないと聞いた。教育を大切にしてきた日本の文化はとてすばらしいと思う。明治になって、文明開化で日本は急速に発展し、欧米と肩を並べるほどになった。太平洋戦争でアメリカに負け、ぼろぼろ

になっただが、戦後速やかに一致団結してふっ
こうし、経済でアメリカをおびやかすほどの
存在に再びなった。このように急速に成長し
ふっ、こうできたのは、江戸時代から全国民が
教育を受け、日本のために血のじむ努力を
してきたことを歴史が大好きなぼくは本を讀
んで学んだ。

しかし、今の日本はガーナとはちがいで、食
事にも困ることがなく、だれもが義務教育を
受けることができる。しかし、ゲームやSNS
Sに夢中になり、勉強の大切さを忘れている
人がたくさんいるように思う。日本は経済が
弱くなり、今では中国にぬかれてしまった。
そのため、これまでの信賴を失ってしまった
いる。

ご先祖様が努力して、発展させ守った日本
を維持するため、ぼくにできることは、昔
の人と同じように一生けん命勉強をすること
だ。そして、学んだ知識を活かし、しっかり
とした自分の考えを持ちたい。またリーダー

として同じような考えの人たちと努力し、一人ひとりが主役としてこの日本を發展させることが大切である。勉強する意欲がない人や、自分の考えを持っていない人がいたら、いっしょに学び、共に考えていきたい。ぼくは政治家を目指すわけではないが、努力して自分が将来働く分野のリーダーになれば、政治家ともいっしょに日本をどうするか考えることができるかもしれない。

今後、豊かな日本であり続けるためには、国民全体の思いが変わらなければならぬ。まずは、勉強をするために貧困をなくし、だれもが平等に教育を受けられる環境が必要だ。また、勉強をするためには、その大切さを知り、なぜ勉強をするのかを考えるべきだ。日本が再び力のある国になることができれば、世界のリーダーにならなければならない。軍事力でリーダーになるのではなく、経済や文化、さらに教育で世界のリーダーになってほしい。そのためには、貧しい国にただお金を配るだ

けではなく、支援してきた国が自立できるよ
うにする必要がある。それには教育が一番大
切だと気付いた。ガーナの子供たちを勉強で
きるようにし、夢をかなえさせてあげること
ができれば、その国が豊かになるだろう。そ
して、日本がそれを手助けすることで、世界
中が豊かで平和になり、信頼される国になる
と思う。

この教育問題に取り組むために今の自分が
すべきことは、豊富な知識を得て、問題につ
いて自ら考え、解決する力を身につけること
である。将来はリーダーとして周りを引っぱ
ることで、学ぶ機会の平等と学ぶことの意味
を広めることができれば、日本の未来が明る
いものになると考える。この課題に取り組ん
だことで、なぜ自分が勉強するのか疑問が解
けた。将来に向かってその第一歩として、志
望校に合格できるように勉強していこうと強
く思う。